



「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキ ケンスケさんのプロジェクト OVER THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

## 熱海土石流から 1 年

### 熱海土石流 1 年 地元ラジオの中学生パーソナリティ 「被災地のために」



静岡県熱海市でラジオパーソナリティを務める、中学3年生の男子生徒。2022年から、土石流の話題を放送に取り入れるようになった。被災者の気持ちを第一に、本当に被災地のためになる放送を模索し続けている。

#### ◆被災地だからこそ葛藤

災害のことを長く話し過ぎてしまうことで、被災者に辛い記憶を思い出させてしまうのではないかな…。

これまでは1時間の放送で、災害関連の情報を話すのは、約5分が精いっぱいだった。

あれから1年。伊豆山は復興に向け、一歩ずつ前に進んでいる。大森さんも、今回の収録では、発災当日の話とともに、普段からの備蓄の大切さなどについても伝え、初めて10分程度の時間をかけて、土石流について話をした。

熱海市の土石流についてはこれからも、毎回とはいきませんけど、何回か周期にお話をしなければならぬので、話して、そして防災対策などを確認して頂ければと思います～

被災者の思いと、この災害を伝えていかなければならぬという使命感を抱えて…。

本当に地域のためになる放送を模索しながら、大森さんは、これからも発信を続ける。



熱海市のコミュニティFM、「FM熱海湯河原」  
毎月第2土曜日、午後9時から1時間の番組を担当しているのが、熱海中学校の3年生、大森匠真さん



熱海の一日も早い復興を願  
い掲げられた七夕の短冊  
(昨年の被災直後の様子)

昨年の7月にあった熱海の土石流災害から1年が経ちました。KOMABAでもこの件については、総合学習やKOMABA DAYで取り上げました。私自身も熱海のことについて生徒と話すことがあります。そのたびに伝え方を考えさせられます。今回の記事のように、あることについて意見を発したり、人に何かを伝えたりすることは、確かに慎重に行わなければいけない場合があります。そのためついつい私たちは傍観者になりがちです。それでも、踏み出して他者の心に寄り添うことでより良い社会に近づけるのだとしたら、子供達には外の世界に関心をもって、物事に向き合ってもらえるようになりたいです。今日は七夕ですね。熱海の一日も早い復興と、皆様の願いが叶いますように。(谷口)